

令和7年度 卒業論文要旨・講評

| | |
|----------------|---|
| 学 生 氏 名 | 安孫子 武琉 |
| 論 文 タ イ ト ル | 持続可能な武道ツーリズムのモデル構築 —構造的な分断からリジェネラティブな未来へ— |
| 要 旨 | <p>本論文は、武道ツーリズムの現状や課題を明らかにし、経済・社会的価値を両立する持続可能なモデルを構築することを目的とする。先行研究の整理に加え、アクターネットワーク理論を用いた現状の記述を通じて、国・行政・武道界・民間事業者の間に構造的な分断が存在することを指摘した。</p> <p>成功事例の分析では、KANOモデルを用いて武道ツーリズムの魅力を析出するとともに、カロンの翻訳プロセスとSECIモデルを理論的基盤として、関係構築により分断を克服し、武道の真正性を翻訳できるコーディネーター機能の必要性を明らかにした。</p> <p>しかし、現状ではこれらの機能は属人化しており、未だ形式知化されていない。そこで本研究では、コーディネーター認定制度や参入障壁の低い国内市場でのコンテンツの展開を提案する。これらは武道の真正性を担保しながら地域社会を再生させるリジェネラティブ・ツーリズムの形でもあり、CSVの観点をも含む循環型のビジネスモデルである。</p> |
| 講 評 | <p>本論文は、武道ツーリズムの現状と課題を整理し、持続可能なビジネスモデル構築に向けた条件と施策を検討したものである。既存研究の詳細なレビューに加え、武道団体や民間事業者へのヒアリングを通じて課題を多面的に把握している。さらに、成功事例を詳細に分析し、運営者の高度なコーディネーター機能が重要である一方、その機能が属人的な暗黙知となっている点を問題点として指摘している。コーディネーターの育成制度やビジネスモデルの推進体制、造成すべきコンテンツの具体案を提示している点も高く評価できる。本論文は学術・実務の両面から武道ツーリズムの発展に資する有益な指針を示しており、最優秀卒業論文賞に相応しい成果である。</p> |